

国産アニメーション誕生百周年記念展示

Nippon Animation Kotohajime

「動く漫画」のバイオニアは

こころははじまる

にっぽん
アニメーション
ことはじめ

しもがむくひん
川口天

きたやま
北山清太郎

ことうちじゅんいち
幸内純一

まえかわせんぱん
前川善伴

川崎市市民ミュージアム

2017年9月2日(土) - 12月3日(日)

9:30 - 17:00 (入館は16:30まで) 毎週月曜休館 (ただし9月18日、10月9日は開館)、
9月19日(火)、10月10日(火)、11月24日(金)は休館

アートギャラリー2・3

入場無料

主催：川崎市市民ミュージアム
企画協力：Animation As Communication 原画協力：松本夏樹
協力：京都国際マンガミュージアム / 京都精華大学国際マンガ研究センター、
おもちゃ映画ミュージアム、東京国立近代美術館フィルムセンター、
大阪府立中央図書館国際児童文学館、和歌山県立近代美術館、
音楽学校メーザー・ハウス



100年前何が起こったのか？国産アニメーション誕生の謎に迫る！

日本で最初のアニメーションは、今から100年前、1917(大正6)年1月に浅草の劇場で公開された「でこぼろしんがちょう凸坊新畫帖、いもずひいのししがり芋助猪狩の巻まさ」と考えられています。映画会社に依頼され制作にあたったのは、当時駆け出しの漫画家だった下川凹天。それから半年の内に北山清太郎、幸内純一しもかわへこてんと前川千帆きたやませいたろうが、相次いで作品を公開し、日本のアニメーション文化はここに芽吹きました。

しかし、これらの最初期の作品は、近年フィルムが発見された「なまくら刀がたな」(1917年公開)をのぞくと、現在ほとんど見つかっておらず、情報も断片的にししかかっていません。果たして、100年前に何が起こったのでしょうか？

本展では、100年前にアニメーション制作に挑んだ4人の先駆者たちの活動に光を当てると共に、現代に繋がる戦前の漫画文化とアニメーション文化の交わりが分かる関連資料を展示します。あわせて現在発見されている最古の国産アニメーション「なまくら刀」、未だ発見されていない下川凹天作品を現代のアニメーション作家たちの感性で蘇らせた「下川凹天トリビュートアニメーション」の上映展示などを行い、国産アニメーション誕生100周年を顕彰します。

あわせて、当館が所蔵する下川凹天の遺品資料を元に、「日本初のアニメーション制作者」とはまた違う、「漫画家」下川凹天の生涯を紹介します。



下川凹天「芋川粽三(部分)」
『東京パック(11巻22号)』(1915年)
川崎市市民ミュージアム蔵

関連イベント

国産アニメーション100周年記念イベント 初期アニメーション作品上映&記念講演

現在発見されている最古の国産アニメーション「なまくら刀」(1917年)の弁士・伴奏付きフィルム上映を含む、初期アニメーションの上映会とあわせて、生前の幸内純一や下川凹天を何度も取材した、山口且訓氏の記念講演を開催します。山口氏はアニメーション史の金字塔として知られる「日本アニメーション映画史」(有文社/1978年刊※渡辺泰氏と共著)の著者です。

日時:10月22日(日) 上映11:30~、14:00~ / 講演15:00~

会場:1F映像ホール(定員270名)

入場料:上映(1プログラムにつき※入れ替え制) 一般600円、65歳以上・大学生・高校生500円、小中学生400円 ※未就学児、障害者手帳等をお持ちの方及びその介護者無料

※講演は無料です。(講演会のみ参加も可能です)

11:30~(開場11:15) 上映プログラム①

「くもとちゅうりっぷ」(1943年/16分/監督:政岡憲三)

「桃太郎 海の神兵」(1945年/74分/監督:瀬川光世)

14:00~14:50(開場13:45) 上映プログラム②「蘇ったフィルムたち—蘇ったアニメーション—」

<弁士+伴奏つき上映> 弁士:片岡一郎/ピアノ伴奏:上屋安由美

「なまくら刀(堀内名刀之巻)」(1917年/4分/作画:幸内純一)

「浦島太郎(仮)」(1918年頃/2分/作者不詳)*

*従来は1918年の北山清太郎作品とされていましたが、本展示に関わる調査で異なることが判明しました。

「漫画 癩取り」(1929年/14分/監督:青地忠三・作画:村田安司)

<音声版上映>

「黒ネッコ」(1929年/3分/作画:大藤信郎)

「茶目子の一日」(1931年/7分/監督:西倉喜代治)

「幽霊船(YUUREISEN)」(1956年/11分/監督:大藤信郎)

15:00~16:20(開場14:50) 記念講演「アニメーション史を訪ねた男、100年を語る」

ゲスト:山口且訓(アニメーション研究者/『日本アニメーション映画史』著者 ※共著)

聞き手:原口正宏(アニメーション研究者)

「蘇ったフィルムたち」の企画は、フィルムの上映環境を確保するための「Fシネマプロジェクト」の一環として、コミュニティシネマセンターの会員館を中心に全国で実施するものです。主催:川崎市市民ミュージアム、東京国立近代美術館フィルムセンター、一般社団法人コミュニティシネマセンター/協力:松本夏樹、映像文化製作者連盟

交通案内

武蔵小杉駅(JR南武線・横須賀線・湘南新宿ライン、東急東横線・目黒線)からバスで約10分

- 北口1番乗り場から川崎市バス 【杉40】市民ミュージアム行 終点下車
【杉40】中原駅行・【溝05】溝口駅前行 「市民ミュージアム前」下車すぐ
- 南口「東横線小杉駅」バス停から東急バス 【川33】市民ミュージアム行 終点下車
- 横須賀線口2番乗り場から東急バス ※土曜・休日のみ 【杉05】市民ミュージアム行 終点下車

溝の口駅(JR南武線、東急田園都市線・大井町線)からバスで約20分

- 北口3番乗り場から川崎市バス 【溝05】小杉駅行 「市民ミュージアム前」下車すぐ
- 北口5番乗り場から東急バス 【溝02】小杉駅行 「市営等々力グランド入口」下車徒歩8分

川崎駅(JR)からバスで約40分

- 西口北バスターミナル82番乗り場から東急バス 【川33】市民ミュージアム行 終点下車

※当館に専用駐車場はありません。お車でお越しの方は等々力緑地内駐車場(有料)をご利用ください。
駐車料金と利用の割引等はございません。

ワークショップ 森のなかでアニメーションをつくろう！

葉っぱや木の実などを集めて、それをもとに「コマ撮り」のアニメーションをつくってみましょう。
※雨天の場合、一部内容を変更して開催します。

講師:モリシタトヨミ(アニメーション作家/研究者)、高田苑実(アニメーション/映像作家)

日時:10月15日(日) 13:30~16:00

会場:1F遊覧展示空間およびミュージアム周辺

対象:小学生~高校生(定員10名)

参加無料・事前申込制(先着順) 申込先:TEL 044-754-4500

下川凹天トリビュートアニメーション& 現代のアニメーション作家たちの作品上映会

100年前に日本で最初に作られた下川凹天のアニメーションは、未だ発見されていません。その幻の作品を現代のアニメーション作家たちの感性によって、「下川凹天トリビュートアニメーション」として蘇らせました。さらに、トリビュートに参加したアニメーション作家たちのオリジナル作品も紹介します。

日時:11月19日(日) 13:30~16:00

会場:3Fミニホール(定員40名)

参加作家:みなまるこ、ヨシムラエリ、薩摩浩子、永田ナヲミ、モリシタトヨミ、高田苑実、山北麻由子、おはらひでかず 他

参加無料・自由参加(申込不要)・途中入場可能

連携上映企画 スクリーンに蘇る！アニメーション傑作選

日本の劇場用アニメーション史上の傑作を選びすぎて上映いたします。スクリーンで鮮やかに蘇るアニメーションの美しさと奥深い歴史をお楽しみいただけます。

上映作品:「桃太郎 海の神兵」(1945年)、「バングコバング 雨ふりサーカス」(1973年)、「幻魔大戦」(1983年)、「銀河鉄道の夜」(1985年)、「千年女優」(2001年)ほか(全10プログラム)

日時:10月14日(土)、15日(日)、21日(土)、22日(日)、28日(土)、29日(日)、11月11日(土)、12日(日)、18日(土)、19日(日)、25日(土)、26日(日) 各日11:30~14:00~

会場:1F映像ホール(定員270名)

当日券(1プログラムにつき):一般600円、65歳以上・大学生・高校生500円、小中学生400円

※未就学児、障害者手帳等をお持ちの方及びその介護者無料

プログラムの詳細は川崎市市民ミュージアムHP(<http://www.kawasaki-museum.jp/cinema/>)の上映案内に掲載します。



KAWASAKI
CITY
MUSEUM

川崎市
市民ミュージアム

〒211-0052 神奈川県川崎市中原区等々力1-2(等々力緑地内)
TEL:044-754-4500 FAX:044-754-4533 HP:<http://www.kawasaki-museum.jp/>

